

♪ 2017年度 *poco a poco* ♪

Nr. 22 2018年2月14日(水) 文責: プファイル・辰巳

Fastnacht

(カーニバル: 謝肉祭) も終わり・・・

火曜日でファッシングの一連の行事が終わりました。復活祭までの40日は、カトリック教会では「断食期」。昔のように断食を強いる人はあまりいませんが、自分の健康のためにも、この時期はアルコールや甘いものなどの嗜好品を控える・・・という人は、多いようです。私もちょっと見習おうかな・・・?



3学期ミニコンサート、申し込み受け付け中!!

ミニコンサートの出演申し込みを受け付けています。

締め切りは、2月22日(木) です。

みなさん、申し込みはお早めをお願いします。

<作曲家のこの一曲 ⑪ フレデリック・ショパン

～ピアノの詩人が作ったチェロの名曲～

「チェロソナタ ト短調 Op.65」>

ピアノの詩人と呼ばれるポーランドの作曲家ショパン。ショパンといえばピアノ曲、ピアノ曲といえばショパン・・・というくらい、ショパンの作品には美しいピアノ曲がたくさんあります。また、日本でも「ショパン国際ピアノコンクール」は大変有名で、新人ピアニストの登竜門として話題になることも多いですね。

フレデリック・ショパンはフランス人の父とポーランド人の母との間に、1810年、ポーランドで誕生しました。後にパリに移住し、活躍しましたが、1849年、39歳の若さで生涯を閉じました。

その短い生涯の中で、「ピアノソナタ」「バラード」「スケルツォ」「ノクター

ン」「エチュード」「マズルカ」「ポロネーズ」「ワルツ」などのピアノソロ曲をたくさん作曲しました。また、オーケストラをバックに奏でられる「ピアノ協奏曲」も有名ですね。次々にピアノから繰り出される甘く美しいメロディや切ない響きを聞いていると、「ピアノ詩人」と呼ばれたことにも納得できます。そして、それらの美しいメロディはしばしば映画や商業のBGMに使われ、私たちの耳に優しく響いてきます。



このようにピアノ曲の作曲には秀でていたショパンですが、一方でオーケストラレーション、つまり、オーケストラ曲や協奏曲のオーケストラ・パートの作曲については、やや苦手だったようです。そのせいでしょうか、ピアノ以外の器楽曲や室内楽はあまり残していません。

でも、今日紹介するのは、そのショパンの曲としては珍しい「チェロソナタ短調、Op.65」です。この曲は1846年に作曲されたといえますから、かなり晩年の曲になります。ショパンが作曲した最後の室内楽とも言われています。ショパンはピアノの次にチェロという楽器が好きだったようです。また、とても親しくしていた友人がチェリストだったということも、この「チェロソナタ」を作曲するきっかけになったそうです。

「チェロソナタ Op.65」は第4楽章までである30分余りの大曲で、チェロのパートはもちろん、ピアノのパートも大変難しいそうです。さすがはピアノの詩人ショパンが作曲した曲ですね。ショパンはこの曲を友人チェリストと自分のピアノで共演することを想定していたようです。ショパンの曲としてはやや難解でとっつきにくい感じがしますが、聴けば聴くほどなかなか味わい深い曲です。往年のロストロポーヴィチ(チェロ)とアルグリッチ(ピアノ)の演奏がおすすめです。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

2月25日(日) 20時から
アルテオーパー・大ホールにて
гент・ヴォーカル・コレギウム と
ブルーシュ・エテルナ・アニマの演奏
ベートーヴェン 交響曲第9番 他

